申立事情説明書

（任意後見）

※　この事情説明書は，申立人（申立人が記載できないときは，本人の事情をよく理解している人）が記載してください。

平成　　年　　月　　日

氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

（記入者が申立人以外の場合は申立人との関係：＿＿＿＿＿＿）

携帯電話　　－　　－

連絡先名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号　　－　　－

※　裁判所名で電話しても　　よい・差し支える

第１　申立ての実情について

１　申立ての経緯について

⑴　任意後見契約の締結の時期及び経緯

契約日：平成　　年　　月　　日

契約場所　□　　公証人役場　　□　自宅　　□病院・施設

事情（何が契機で，どのような経緯で契約するに至ったか）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

⑵　今回の任意後見監督人選任事件を申立てるに至った事情

事情（何が契機で，下記の何を目的に申立てるに至ったか）

ア　預貯金の解約又は保険金，年金，家賃等の受取りのため

イ　財産の購入，賃貸借又は処分（相続放棄を含む。）のため

ウ　金銭借入れ（本人の不動産に担保を設定するのみの場合を含む。）のため

エ　その他の財産管理のため

オ　施設入所又は福祉サービス契約のため

カ　裁判所の手続（遺産分割調停，訴訟等）のため

キ　その他(　　)

2　本人の財産の管理状況

本人の財産を現在事実上管理しているのは誰ですか。

□本人自身

□申立人（あなた）

□その他の人（氏名及び本人との関係　　）

□誰が管理しているか分からない。

※　財産目録及び本人収支表を作成してください。

3　本人の親族について

(1)　本人に配偶者，子，親及び兄弟姉妹がいましたら，その方の氏名，住所等を記入してください。

番号	氏　　名	年齢	本人との関係	住　　所／電話番号
1				TEL　　－　　－
2				TEL　　－　　－
3				TEL　　－　　－
4				TEL　　－　　－
5				TEL　　－　　－

（書ききれない場合は別紙を作成してお書きください）

(2)　上記親族の中で，この申立てを知っている人がいる場合は，その人の番号欄に○を付けてください。

⑶ ⑵の親族で，この申立て（申立てをすること自体，任意後見監督人候補者について等）に対しての反対の人がいれば，その人の名前，反対の内容を記載してください。

第２　本人の状況について

１　本人の生活

⑴ 本人は現在どこで生活していますか。

□　病院，老人ホーム等の施設で生活している。

施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

入院日：平成　　年　　月　　日

所在地：〒　　－

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号　　－　　－

最寄駅：　　線　　駅下車　徒歩・バス（　　行き）・車　　分

□　転院・移転予定あり（平成　　年　　月頃：移転先　　）

□　転院・移転予定なし

□　自宅（又は親族宅）で生活している。

（同居者：　　）

自宅（又は親族宅）での本人の介護は，次のとおりである。

□　介護サービスを受けている。

（要支援状態・要介護状態区分１・２・３・４・５）

□　親族が介護している。

（介護者：　　）

□　介護は受けていない。

最寄駅：　　線　　駅下車　徒歩・バス（　　行き）・車　　分

２　本人の病歴（病名，認知症や障害の発現時期，受傷時期，受診時期，その後の通院・入院歴等）を記入してください。

（例：平成○年○月脳梗塞，平成○年○月～平成○○年○月○×病院入院）

3　本人の経歴（出生，学歴，職歴，結婚，出産等）を分かる限り記入してください。

年月日	職歴・学歴	年月日	身分の変動，家族関係
．　．	出生	．　．	□結婚・□養子縁組
．　．	中学校卒業	．　．	
．　．		．　．	
．　．		．　．	
．　．		．　．	
．　．		．　．	

4　本人に関して，これまでに家庭裁判所の手続を利用したことがありますか。

□　ない

□　ある　　時　　期　平成　　年　　月頃

裁判所名　＿＿＿＿家庭裁判所＿＿＿＿＿＿支部・出張所

申立人名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

事件番号　平成　　年（家）第　　号

事 件 名　後見開始・保佐開始・補助開始・任意後見監督人選任

その他（　　）

5　本人のこの申立てに対する認識について。

(1)　本人は任意後見契約を締結したことを記憶していますか。

□　記憶している　　□　記憶していない

(2)　本人はこの申立てがされることを知っていますか。

□　知っている。

本人は，任意後見監督人を選任（契約を発効）することに同意していますか。

□　同意している。

□　同意していない。（理由　　）

□　分からない（本人が理解できない場合を含む）。

候補者が任意後見監督人になることについて本人の意向はどうですか。

□　本人は，候補者が任意後見監督人になることに賛成している。

□　本人は，候補者が任意後見監督人になることに反対している。

（理由　　）

□　分からない（本人が理解できない場合を含む）。

□　知らない（その主な理由は次のとおりである）。

6　本人の現在の状況について。

(1)　裁判所まで来ることは

□　可能である。

□　不可能，または容易に来ることができない。

(2)　会話能力

□　会話は成り立つ。　　□　話はできるが，意味が通じない。

□　発語はできない。

(3)　本人が裁判所へ来ることができなければ，家庭裁判所調査官が本人のところへ面接調査に伺いますが，留意すべき点（訪問可能な時間帯，訪問する際の本人の精神面への注意等）があれば記載ください。